

しま 地域だより 6月号

サザンクリーンセンター推進協議会



湧水
地域の井

チチンガー

所在地/南城市大里字大里577



提供：南城市教育委員会 文化課



玉城得慶さん

チチンガーは島添大里グスクの入口近く字西原にある。周囲は立派な琉球石灰岩で覆われおり、造形性に優れていることでも有名な井戸だ。湧水口は表面から8メートル下にあるため、取水口までは精巧に石積みされた43段の石段が取り付けられている。また、井戸を囲む石垣の一部がアーチ状になっていて、そこには拝所も作られている。詳細な築造年代は不明だが、すでに14世紀ごろには造られていたと考えられており、歴史的にも価値のある井戸である。

上水道が普及する以前までは、西原集落の共同井戸として飲料水などに利用されていた。近くに住む玉城得慶さん(78)は「200年ほど前にはこの近くには人が住んでいなかった。その後チチンガーを頼って首里、小禄、今帰仁ほかいろいろな地域から人が集まり集落を形成したようだ」「夏は氷のように冷たく、冬は温たく、しかもなぜか甘い感じのするおいしい水でしたよ。井の水を使った豆腐づくりや毎日の風呂が昨日のように浮かんでくる」と昔の井戸のある生活を懐かしんでいた。

【実務者会議始まる】

第1部会 処理方法、候補地 年度内の選定めざす

新組織発足後初の施設建設選定部会（第1部会）の会合が5月23日、南部広域行政組合会議室で開かれた。

部会長及び副部会長の選出が行われ、部会長に照屋義実氏（与那原町住民代表）、副部会長に赤嶺要善氏（豊見城市副市長）が選任された。

事務局側からは南部のごみ処理の現状と処理方式の機種



第1部会の初会合が開かれた。今後議論を深めていく

も覚悟を持って挑みたい。住民自治というキーワードを念頭に置き、他の部会との連携を図りながら運営していきたい」と、限られた時間内で論点を絞って議論していきたいと語った。その他、事務局への意見として次のようなものが挙がった。事務局側から

選定の概略などが説明された。先進地視察についても活発な意見交換がなされ、「先進地視察もいいが、旧南尻協で議論してきた部分も生かせないのか」との意見も出たが、百間は一見にしかずで、実施の方向で協議決定された。

出された各清掃組合に持ち込まれるごみの搬入料、さらに処理料の資料と、新聞報道の数字に違いが出ている。住民説明責任を考えると実情に即した資料の提示をしてほしい。データ資料に乏しく現段階で突っ込んだ話し合いは難しい。処理方式の資料についても、シミュレーションはきめ細かく、次回までに幅広いデータの提示を求めたい。

・部会の中で共通の認識を持つために、事務局には専門用語の解説冊子の作成などを願いたい。
・ごみ処理を町づくりになかして徳島県上勝町やし尿処理汚泥を稲作に活用している築上郡旧椎田町などの環境先進地視察をしてはどうか。

各部会長の顔ぶれ



照屋義実氏

第1部会部会長



赤嶺要善氏

第1部会副部会長



八幡正光氏

第2部会部会長



国吉倅明氏
(4部会の副部会長を兼任)

第2部会副部会長



當間嗣儀氏

第4部会部会長



地域振興策を話し合っていく第2部会

第2部会 振興策は 地域の実情に沿って検討

第2部会（地域振興部会）は5月22日、14時から南部広域行政組合会議室で行われ、部会長及び副部会長の選出を行い、部会長に八幡正光氏、副部会長に国吉倅明氏が選出された。

振興策についての具体的な討議は候補地が絞られた段階で地域の実情に沿って策定するとし、今後は新しい5市町の枠組みの中で地域振興費の総額について検討して行くこととなった。



広域化を検討していく第4部会

第4部会 施設広域化の検討を確認

第4部会（施設整備広域化研究部会）が5月23日、14時から南部広域行政組合会議室で行われ、部会長及び副部会長の選出を行い、部会長に當真嗣儀氏、副部会長に国吉倅明氏が選出された。

今後は、5市町の地域に既存する、東部、島尻清掃組合の2施設と今回新しく建設するサザンクリーンセンターの広域統合は必要であるとし、精力的に調査・検討していくことを確認した。

倉浜衛生施設組合

4年間限定で受け入れ

5市町急がれる自前の処理施設

サザン協（会長古堅國雄）

の5市町長は5月2日、倉浜衛生施設組合の管理者東門美津子沖繩市長を訪ね、糸・豊清掃施設組合の豊見城分の焼却灰と島尻消防清掃組合の焼却残渣受け入れへのお礼と表敬を行った。サザン協が2010年末までに自前の最終処理施設の建設を行うとする



東門市長を表敬したサザン協の一行



倉浜衛生施設組合の最終処分場を視察する



中部北環境施設で質問する古堅会長

計画書を倉浜組合に提出した

ことで受け入れに合意したものである。その中で東門市長は「最終処分場建設のめどが示されなければ、住民への説明が困難。なくてはならない施設だというのは全員が理解している。4年は限定された期間であり、今後は各首長の動きが重要になってくる」と

話した。

これを受けてサザン協の古堅國雄与那原町長は「本当にありがたいこと。受け入れに感謝したい。限られた時間の中で建設実現に向けて各首長が一丸となって取り組むつもりだ」と答えた。

このあと一行は倉浜衛生施設と中部北環境施設を視察した。

サザン協全体部会開催 建設に向け、共通認識を確認

サザン協の施設建設部会（第1部会15名）、地域振興部会（第2部会7名）、ごみ処理研究部会（第3部会12名）、広域化研究部会（第4部会6名）の全体会議が4月27日（金）午後2時から八重瀬町東風平の南部総合福祉センターホールで開催された。

新委員へ委託状が交付された後、古堅國雄会長（与那原町長）は、「今回の処理施設については19年度中に建設候補地決定に取り組めるよう努力していきたい。全首長が一丸となり背水の陣を敷いて行動するつもりであり、建設は必ず実現するものと理解している。それには皆さんの協力が不可欠である」と話した。

その後、事務局側から会則、今後のスケジュール等の説明があり、4月17日の理事会での宣言文についても各市町議会で採択されるよう説明がなされた。

会議の中で、部会の委員から以下の意見が出された。

① 候補地の選定が8月から11月までの4ヶ月となっている。このような短期間で大丈夫なのか。また前回の候補地の絞り込みは各自自治体とのヒアリングで決定したが、今回は第1部会も参加した方がよいのでは。垣花桶川水源周辺など本来建設すべきではない場所がヒアリングの

結果、高得点を残したのとは不可解だ。

（大城順子 第1部会 南城市）

② 第1部会の使命は限られた時間内で処理方式、建設候補地をどこにするかだ。密度の濃い内容をもって議論していきたい。

③ 第2部会で行われる振興策の検討だが、現段階でプランはあるのか。

（諸見里俊一 第3部会 八重瀬町）

④ 候補地が絞られた段階で住民側、自治体、協議会で三者協のような枠組みを作り、その地域に最適な振興策を検討する場を設けたい。これについても先送りすることなく同時に進めたい。

・振興策は候補地選定に先んじて住民側に示してはどうか。また、各市町が当事者意識を確立するためにも、それぞれの市町で事業推進体制を作る必要がある。

（大城秀雄 第1部会 南城市）

・陣痛の痛みはしたが生まれるものは何もなかったと言われないように、施設が生活にどれだけ密着したものなのか、地域に対して明るい未来への計画を掲示し、全国のモデル地区となるよう取り組みなくてはならない。地域住民のごみ問題に対する意識向上の啓発に努める努力も見いだしてほしい。

（城間精善 第1部会 八重瀬町）

環境
美化

わたしたちの 取り組み



西原町役場 健康衛生課
西原町クリーン指導員

西原町では買い物の際にマイバッグを持参して出来るだけレジ袋などを断ることや、簡易包装された環境にやさしい商品を優先的に購入する事を推奨している。

5月10日、サンエー西原シティで行われた「もらわないキャンペーン」では、コンビニやスーパーの店頭において家庭生活に密接に関わるレジ袋やストロー、中袋など、ごみになりやすい物は出来るだけもらわないことが重要であることをチラシの配布によって呼びかけた。

西原町クリーン指導員の諸見里米子さんは「とにかくいつでもどこでもリユース、リデュース、リサイクルの3R精神の徹底を」と話した。



西原シティでチラシを配布する西原町クリーン指導員の皆さん

サザン協5市町長 久間防衛大臣、内閣府を表敬

サザンクリーンセンター推進協議会(会長:古堅与那原町長)の5市町長は5月14日、内閣府の清水振興局長を訪ね、新組織の立ち上げと、新たなる取り組みについて報告を行った。

市町長を代表し、古堅会長が「住民に安全、安心な喜ばれる施設建設のため、行政の最優先課題として、5市町長が一丸となって取り組んでいく、ご支援をお願いしたい」とあいさつ。これを受けて清水局長は「生活に密着した基盤施設であるので、内閣府としてもしっかり建設に向けて協議を進めていきたい」と述べた。

このあと一行は防衛省の久間大臣、施設庁の北原長官を訪問し、同様の要請を行った。



防衛省で久間防衛大臣へ要請する5市町長

6月のスケジュール

処理方式にかかる審議スケジュール(第1部会)

6月18日(月)	処理方式の勉強会 ～近年のゴミ処理技術～ 「最終処分場、灰溶融、熱分解ガス化溶融」
7月2日(月)	県内視察研修
7月4～6日	県外視察研修 処理技術科をメーカーから聴取
8月	処理方式の比較検討 理事会へ答申

事務局だより

5月後半から相次いでサザンクリーンセンター推進協議会(以下サザン協)各部会の会議が行われた。

ある部会で「ゴミ収集をなくした町」という徳島県上勝町の話が出た。資料によると、素人である住民が勉強に勉強を重ね、35種類に及ぶゴミの分別や企業からリコールされた家庭用生ゴミ処理機を安価に仕入れ各家庭に配布するなど、町ぐるみで取り組んだ。平成13年にはお金を払って焼却したゴミ量4700トンが50トンにまで減ったという。人口2239人のうち、登録ボランティアは464人。実に5人に1人以上が実際に活動しているという意識の高い町だ。確かに「小さな町はなしだ」。『自前の処理施設を持たない町』等々、文章からは読み取れない側面も併せ持たせよう。しかし、ゴミへの取り組みに対して一石を投じる意味でも非常に重要な取り組みの事例である事は確かだ。町内の中学生が心なく捨てられた空き缶を自主的に拾う姿も見られるという。

資料では最後に「目標は『世界の環境首都だ』と胸を張って言える町にしたい」と結んでいる。

他にも全国の環境先進地の取り組みを知っているという方、サザン協事務局まで一報を。

(名)

発行者

サザンクリーンセンター
推進協議会会長 古堅國雄

住所

〒901-0401 島尻郡八重瀬町
字東風平965番地

電話

098(998)8857

FAX

098(998)9420